

ヤングケアラーへの支援について

1 愛知県ヤングケアラー実態調査

① 調査概要

本来、大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている「ヤングケアラー」の実態を把握するため、2021年度に県内全域において「愛知県ヤングケアラー実態調査」を実施した。

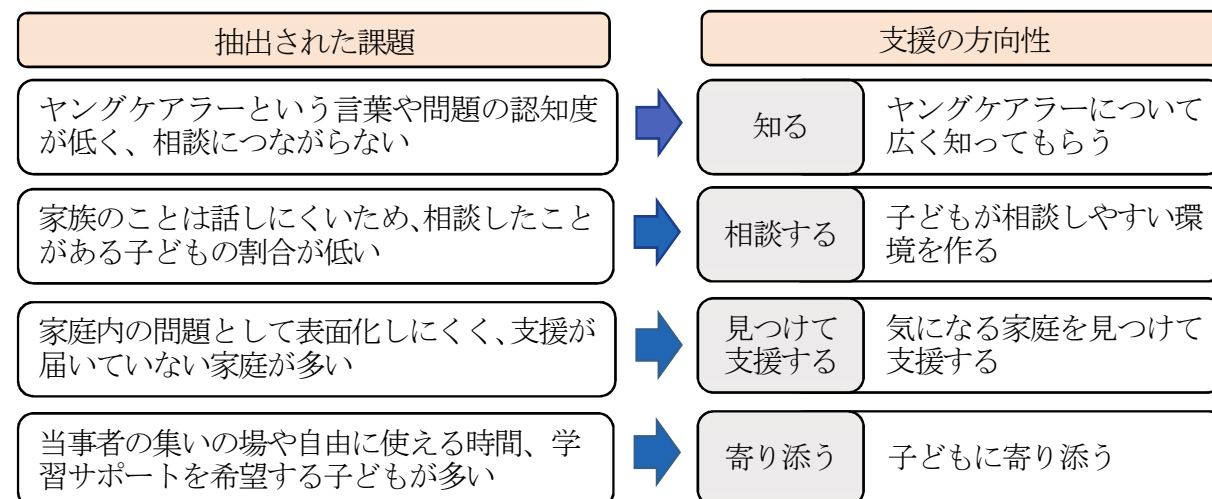
区分	対象/回答状況	
アンケート調査	児童生徒	県内公立小中高等学校（2割）の小5、中2、高2 30,597/37,728人【81.1%】
	学校	県内すべての公立小中高等学校 1,197/1,573校【76.1%】
インタビュー調査	元ヤングケアラー 8人 相談支援機関等 25機関	

② 結果概要

- ・家族の世話をしている子どもは、クラスに3～6人。
- ・家族の世話をしている子どもの約4分の1が、やりたいけどできていないことがあると回答。
- ・子どもたちのヤングケアラーの認知度が低い。

	世話をしている家族がいる	やりたいけどできていないことがある	できていないこと	ヤングケアラーという言葉を知ったことはい
小5	16.7% 【6人に1人】	23.9%	・自分の時間が取れない ・睡眠が十分にとれない	74.4%
中2	11.3% 【9人に1人】	23.3%	・宿題をする時間や勉強する時間が取れない	69.9%
高2 (全日制)	7.1% 【14人に1人】	23.0%	・友人と遊ぶことができない	66.1%

③ 調査により抽出された課題と支援の方向性



2 今年度の主な取組

① 子ども向け啓発事業

子どもたちがヤングケアラー問題を正しく理解し、当事者が自ら相談できるよう、ヤングケアラーの声や相談先等を掲載した子ども向けパンフレットを配布

配布対象：県内すべての国・公・私立小中高等学校の小学5年生～高校3年生（約1,700校・54万人）

配布時期：2023年1月頃

② 広報あいちの特集

7月3日の広報あいち（中日・朝日・読売・毎日の各新聞朝刊）に、ヤングケアラーの特集記事を掲載

③ 県政お届け講座の開催

団体等からの求めに応じて職員を派遣し、「ヤングケアラーって何だろう？」をテーマとした講演を実施

④ ヤングケアラー理解促進シンポジウムの開催

一般県民、教育機関、児童福祉関係機関等関係者を対象に、ヤングケアラーの理解促進を図るためのシンポジウムを開催

開催日・場所：8月2日、ウインクあいち（オンライン併用）

⑤ ヤングケアラー支援関係機関研修の実施

市町村職員、教員、民生・児童委員等を対象に、ヤングケアラーの気づきのポイントや具体的な支援に関する研修を県内各地で開催（9月以降開催）

⑥ 市町村モデル事業

身近な地域で「4つの支援の方向性」に基づいた効果的な支援が行われるよう、市町村にモデル事業を委託し、ヤングケアラーの発見・把握から支援までの一貫した支援体制の整備に取り組む。

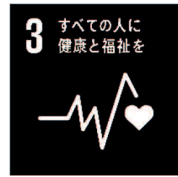
委託市町村数：3自治体

委託期間：2022年11月～2025年3月

3年間の主な委託内容：子ども向け相談の場や支援者向け相談窓口の設置

支援者向け研修会の開催、関係機関連絡調整会議の開催

当事者向けコミュニティサロンの開催



SDGsの「3すべての人に健康と福祉を」に資する取組です。

「愛知県ヤングケアラー実態調査」の結果について

愛知県では、本来、大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている「ヤングケアラー」の実態を把握するため、県内全域において「愛知県ヤングケアラー実態調査」を実施し、ヤングケアラーと思われる子どもの生活実態や課題等を調査しました（調査の実施については、2021年11月15日発表済み）。

この度、調査結果を取りまとめましたので、公表します。

1 調査の実施概要

(1) 児童・生徒に対するアンケート調査

ア 対象

県内公立小中高等学校（約2割）の小学5年生、中学2年生、高校2年生

イ 調査期間

2021年11月17日から2021年12月17日まで

ウ 回答数

	調査対象	回答数	回答率
小学5年生	13,931人	11,970件	85.9%
中学2年生	13,404人	11,116件	82.9%
高校2年生	10,393人	7,511件	72.3%
合計	37,728人	30,597件	81.1%

(2) 学校に対するアンケート調査

ア 対象

県内全ての公立小中高等学校

イ 調査期間

2021年11月17日から2021年12月24日まで

ウ 回答数

	調査対象	回答数	回答率
小学校	965校	722件	74.8%
中学校	416校	322件	77.4%
高等学校	192校	153件	79.7%
合計	1,573校	1,197件	76.1%

(3) インタビュー調査

ア 対象

区分	調査対象	実施数
元ヤングケアラー	ヤングケアラーとしての経験を持つ大学生、社会人	8名
相談支援機関等	障害者相談支援機関、居宅介護支援事業所	25機関
	子ども食堂、民間支援機関	
	医療機関	
	市町村、市町村社会福祉協議会	
	児童相談所	
	県立学校スクールソーシャルワーカー	
	小中高等学校	

イ 調査期間

2021年12月1日から2022年2月4日まで

2 調査結果の概要

「愛知県ヤングケアラー実態調査 調査結果の概要」（別冊）

※「調査結果報告書」は、県児童家庭課Webページで御覧いただけます。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/jidoukatei/aichiyongcarer-survey-results.html>

○世話をしている家族の有無・家族の世話をしているためできていないこと

「世話をしている家族がいる」と回答した子どもは、小学5年生の16.7%、中学2年生の11.3%、高校2年生（全日制）の7.1%であり、全国調査結果（中2：5.7%、高2：4.1%）と比べ高い割合となっています。

	世話をしている家族がいる	やりたいけど、できていないこと（複数回答）
小学5年生	16.7%【6人に1人】 （全国調査：なし）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時間が取れない 11.2% 睡眠が十分に取れない 10.7% 勉強する時間が取れない 7.3% 友人と遊ぶことができない 7.3%
中学2年生	11.3%【9人に1人】 〔全国調査：5.7%〕 〔17人に1人〕	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時間が取れない 12.4% 勉強する時間が取れない 9.0% 睡眠が十分に取れない 8.7% 友人と遊ぶことができない 8.3%
高校2年生（全日制）	7.1%【14人に1人】 〔全国調査：4.1%〕 〔24人に1人〕	<ul style="list-style-type: none"> 自分の時間が取れない 12.2% 勉強する時間が取れない 9.4% 睡眠が十分に取れない 7.7% 友人と遊ぶことができない 7.5%

（ ）は2020年度の全国調査結果

○ヤングケアラーの自己認識

「自分はヤングケアラーにあてはまると思う」と回答した子どもは、小学5年生の2.9%、中学2年生の2.2%、高校2年生（全日制）の1.7%であり、全国調査結果（中2：1.8%、高2：2.3%）と大きな差は見られません。

	自分はヤングケアラーにあてはまると思うか			
	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
小学5年生	2.9% (—)	78.0% (—)	17.5% (—)	1.6% (—)
中学2年生	2.2% (1.8%)	82.5% (85.0%)	14.4% (12.5%)	0.9% (0.7%)
高校2年生 (全日制)	1.7% (2.3%)	83.6% (80.5%)	13.7% (16.3%)	1.0% (0.8%)

() は2020年度の全国調査結果

○ヤングケアラーの認知度

「ヤングケアラーという言葉を知ったことがある」と回答した子どもは、小学5年生の24.7%、中学2年生の29.3%、高校2年生（全日制）の32.9%であり、全国調査結果（中2：15.1%、高2：12.6%）を上回っています。

認知度の向上が進む一方、「ヤングケアラーという言葉を知ったことはない」と回答した子どもが、小中高生ともに70%前後となっています。

	ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるか			
	聞いたことがあるが 内容も知っている	聞いたことはあるが よく知らない	聞いたことはない	無回答
小学5年生	8.9% (—)	24.7% (—)	15.8% (—)	74.4% (—)
中学2年生	13.7% (6.3%)	29.3% (15.1%)	15.6% (8.8%)	69.9% (84.2%)
高校2年生 (全日制)	16.8% (5.7%)	32.9% (12.6%)	16.1% (6.9%)	66.1% (86.8%)

() は2020年度の全国調査結果

～参考：ヤングケアラーとは～

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

(ヤングケアラーのイメージ 例)

障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている

障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている

目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している

がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟